

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市愛子児童館
2 指定管理者	公益財団法人仙台ひと・まち交流財団
3 指定期間	平成29年4月1日から令和4年3月31日まで
4 施設の利用状況	《利用者数》19,562人（前年度比 61.8%） 令和元年度 31,647人 平成30年度 32,457人 平成29年度 26,470人
	《事業》 児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業
5 収支の状況	《費用》 ・ 指定管理者に支払った費用 65,478千円（58,273千円） ・ その他市が負担した費用 0千円（0千円） （ ）は前年度決算額
	《収入》 ・ 使用料収入 0千円（0千円）
	・ その他収入 0千円（0千円）
6 利用者の声	《実施状況》 利用者アンケート、児童館運営懇談会、児童クラブ保護者懇談会を実施。

二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議、チェックシート等で確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。	30/30
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	23/23
IV サービスの質の向上	名札の着用、児童館だよりの発行、ホームページの更新による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	児童クラブにおいては、子ども達が安心して過ごせる生活の場としてふさわしい環境の整備と安全面の配慮が行われており、家庭や学校と情報共有を図り連携した育成支援に努めている。また、昨年度より、コロナ禍のために縮小しているが乳幼児向けの交流の場を工夫するなど、子育て家庭を支援するとともに、子育て支援クラブをはじめとする地域組織・団体・住民・関係機関との連携、相互交流を図りながら児童館の運営に取り組んでいる。	18/18

三 評価総括

《指定管理者（公益財団法人仙台ひと・まち交流財団）による自己評価》

「安全・安心な地域の集いの場づくり～いろいろな地域の方のかかわりを通して子どもの社会性を育む～」を重点目標に感染症拡大防止策を講じながら児童館運営に取り組みました。

子育て家庭支援事業としては「ほっとタイム」「すてっぷタイム」「じゃんぶタイム」を6月以降に人数を制限した上で実施することができました。また乳児を対象とした「赤ちゃんルーム」も遊具等を充実して4回実施することができました。幼児クラブは15組の登録があり、火曜日に18回活動することができました。年齢に合わせた工作や運動遊び、七夕や夏祭り、クリスマスなど季節の行事を取り入れた企画は好評で、子育ての負担軽減や孤立感の解消につなげることができました。参加者からは「質の高い内容で、家庭では体験することができない活動に参加できて良かったです。」「児童館で他の保護者との交流を通して友達をつくることができました。」などのご意見をいただきました。

放課後児童健全育成事業については、感染症拡大防止について児童館での過ごし方について子ども達自らに考えさせ実践させたり、学年毎に居室を設定したりするなど「安心・安全な居場所づくり」に努めました。行事については参加人数を限定し「わくわくひろば」として野菜作りやかぼちゃでハロウィーン、簡単工作、昔の遊びなどの活動を行うことができました。外遊びでは集団で遊ぶ活動に取り組み、異学年交流を通して社会性を育むようにしました。また帰りの会では毎回職員が読み聞かせをするなど読書に親しめる雰囲気づくりにも取り組みました。

地域交流推進事業については、2月に地域の方を招いて児童館運営懇談会を開催しました。その中で来年度以降の地域交流事業についてそれぞれの立場からご意見を伺い、次年度の活動計画に反映していくことにしました。今年度は感染症拡大防止に努めながらも充実した活動を展開することができました。

《施設設置者（仙台市）による評価》

総合評価

令和2年度は、コロナ感染症の影響で緊急事態宣言が4月に発令され、小学校が5月まで休校となったが、休校中も児童クラブの受け入れを行った。この間、乳幼児親子の自由来館及び小学生の自由来館を休止していたが、その後、乳幼児親子の自由来館は6月から平日午前のみ再開し、小学生の自由来館は10月から土曜日のみ再開した。感染症対策のための参加人数の制限や環境の工夫を行うなど様々な配慮と努力を要した児童館運営となった。

子育て家庭支援事業においては、7月より登録制の幼児クラブをはじめ年齢別の定例行事を開始し、季節のあそびや運動遊び、お話し会、近隣の保育士による育児相談など多彩なプログラムを提供し多くの乳幼児親子が参加している。保護者からは「やっと始まって良かった」「広いところで子どもを遊ばせたかった」など児童館に対する期待の声が大きく寄せられ、家庭では経験できないことや保護者間の交流の場を持つなど期待に応えるべく、「ハロウィーンウィーク」や「クリスマスウィーク」など特別な週間を設定した。保護者が楽しめるプログラムを提供するなど行事の見直しや趣向を凝らした事業を開催し、地域の子育て家庭支援の場としての役割を十分果たしている。

放課後児童健全育成事業においては、「わくわくひろば」を月1回開催し、季節の自然体験や学年を超えた交流を目的に野菜作りや工作など行っている。登録児童数の増加により校庭を活用した外遊びを充実させ、体力増進活動の狙いもあり、サッカーやドッチボール、鬼ごっこなど好きな運動遊びを取り入れてきている。さらに、帰りの会で高学年が司会をして子ども達が話し合える機会を作り遊びや生活のルールを決めたり、学年を超えた交流ができるようにするなど、子どもの主体性や社会性の育ちを支援してきている。

S

四 その他特記事項

（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取り組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課（施設所管課）：子供未来局子供育成部児童クラブ事業推進課